

## 〈学術研究集会傍聴記〉

## 第74回日本体力医学会大会 傍聴記

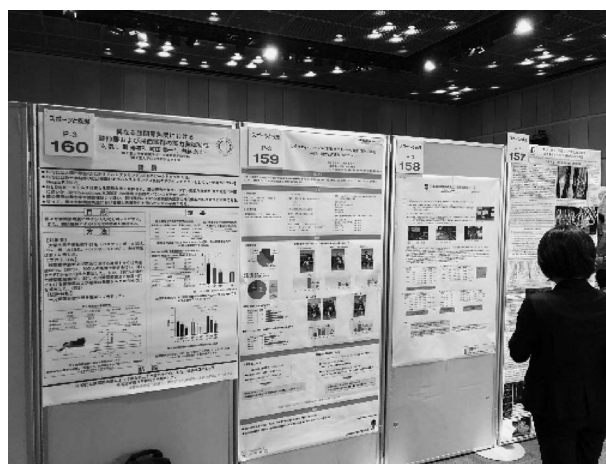
支 磊\*

Lei ZHI\*

2019年9月19～21日の3日間、茨城県つくば市のつくば国際会議場で開催された日本体力医学会大会に参加した。今回で74回目になる本学会大会は「元気な人と社会を育むスポーツ医科学の挑戦」をテーマに、医学のみならず体育科学、栄養学、心理学など、多領域の研究者及び指導者が参加した。今回の日本体力医学会大会では、ポスター発表が489件、口頭発表が300件が行われ、たいへん多くの人たちが参加した学会であった。発表形式は口頭発表で発表7分間、質疑応答2分間、ポスター発表では1時間の発表時間の中で自由討論の2種類に分類されていた。

1日目に、私は東京大学大学院医学系研究科加齢医学の秋下雅弘先生の基調講演「運動実践時における内服薬の重要性」を聞いた。秋下先生は、「超高齢社会を迎えて、“直す医療”から“直し支える医療”へと転換を迫られている。疾患単位で薬をもらう“足し算医療”から脱却し、本当に必要な薬に絞り、非薬物的対応を統合した医療が求められている」と述べた。私も、高齢化社会を迎え、病気は薬で治療することから多職種チーム全体で多元化治療することに変化しようとするのは重要であるとの考えに共感した。

2日目に、私は共同研究者として「平日における身体活動量の年間変化は運動能力に影響を与える」という演題で、そして3日目には、筆頭著者とし



て「異なる膝関節角度における膝伸展および屈曲筋群の筋力発揮特性」という演題でポスター発表を行った。日本の学会で発表するのは初めてではなかったが、大規模な学会で発表し、様々な分野の研究者と意見交換したり、アドバイスを受けたりするため緊張した。また、大腿四頭筋に対するハムストリングスの筋力は、どの部位の傷害と関係があるという最新の研究成果を教えていただくなど、大変有意義な発表の場になった。さらに、私と同じような分野で研究している研究者の方々と意見を交換した上、今まで研究中の難しい問題点を再認識することになり、これから更なる共同研究することができると考えた。

この3日間の学会では、私は多くの事を学び、またたくさんの収穫を得た。そして、今後もしっかりとした研究を行わなければならことを改めて認識し気が引き締まった。今後も、このような学会に積極的に参加し、質の高い成果を発表できるように取り組んでいきたい。

\* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程3年  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University